

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

鏡像を他者と認識していた乳児が、移行期を経て、鏡像を自己と同定できるようになるプロセスについて考察している文章。その際、人間が他者に囲まれて育つことが重要であると考えている。要旨は昨年度と比べてつかみやすかったであろう。設問は昨年度同様、五問であったが、解答の方向性を見極めやすいものが多かった。設問の意図をしっかりとつかみ、解答の内容を絞り込む力が求められている。

<本文分析>

大問番号	第一問
出典 (作者)	田中彰吾『身体と魂の思想史―「大きな理性」の行方』(講談社、2024年)の一節。
頻出度合・的中等	入試で出題されるのは稀な著者である。
分量 前年比較	分量 減少 ・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約2800字。昨年より約1050字減。
難易 前年比較	難易 (易化・ やや易化 ・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第一問	人間論	(一)	記述	標準	傍線部理由説明問題。「生後一年ごろまでの乳児」が「鏡像」をどのように知覚しているのかを、第一・二段落から読み取りまとめる。
		(二)	記述	やや易	傍線部理由説明問題。第五段落に「落ち着きのない回避行動を引き起こす原因」とあることに着目し、考える。
		(三)	記述	標準	傍線部理由説明問題。傍線部の直前に「群れで育ったチンパンジーは『他者から見た自己の身体』を最初から知っているから」とあることに着目し、考える。
		(四)	記述	標準	傍線部内容説明問題。個々の人々の「身体イメージ」が「他者の眼差し」によって形成される「鏡像」に基づいていることを説明する。
		(五)	記述	標準	例年どおり、三問の出題であった。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

様々なジャンルの評論を読み、そのテーマに関する理解を深めるとともに、文章の論理構造をしっかりと把握できるようにしたい。答案に書くべき要素を的確に捉え、簡潔明瞭にまとめる練習をしておこう。

国語 (古文)

東京大学 (前期・理科) 2/3

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

オーソドックスな出題であった。

<本文分析>

大問番号	第二問	
出典 (作者)	『撰集抄』	
頻出度合 ・的中等	頻出出典。	
分量 前年比較	分量 (減少・ やや減少 ・変化なし・やや増加・増加) 約860字。昨年より約220字減。	
難易 前年比較	難易 (易化・ やや易化 ・変化なし・やや難化・難化)	

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第二問 (文科)	説話	(一)			
		ア	記述	やや易	現代語訳。
		イ	記述	やや易	現代語訳。
		エ	記述	標準	現代語訳。
		(二)	記述	標準	心情説明。
第二問 (理科)	説話	(三)	記述	標準	理由説明 (傍線部の直後の内容に注目する)。
		(四)	記述	やや難	内容説明 (「とどめじ」のここでの意味に注意)。
		(五)	記述	標準	和歌の説明 (どのようなことを表しているかを説明する)。
		(一)			
		ア	記述	やや易	現代語訳。
	イ	記述	やや易	現代語訳。	
	ウ	記述	標準	現代語訳。	
(二)	記述	標準	理由説明 (傍線部の直後の内容に注目する)。		
(三)	記述	標準	和歌の説明 (どのようなことを表しているかを説明する)。		

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

古文を読解する上で必要な知識項目を習得するとともに、文章を一語一語丁寧に読解する訓練をしておくこと。正確な現代語訳をするために、単語・文法の学習を厳密に行っておくことが大切である。解答を簡潔にまとめる練習も必要。また、和歌の学習もしておくこと。

国語 (漢文)

東京大学 (前期・理科) 3/3

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

例年どおり文理共通問題であり、今年度も随筆が出題された。設問数については昨年度同様に枝間を含めて文科6題、理科5題であった。また設問に関わる部分での送り仮名の省略は昨年度はなかったが、今年度は4箇所であった。昨年度は現代語訳の設問が大問中になかったが、今年度は大問にもあった。例年どおり、答案を作成する際に内容を適切にまとめるのは容易ではない。

<本文分析>

大問番号	第三問
出典 (作者)	雲棲株宏『竹窓二筆』
頻出度合 ・的中等	稀。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・ 変化なし ・やや増加・増加) 222字。昨年は214字 (昨年より8字増)。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・ やや難化 ・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第三問 (文科)	随筆	(一)			
		a	記述	標準	現代語訳。直前の文との関係に注意する。
		b	記述	やや易	現代語訳。「鳴天下」との対比から「声」の意味を捉える。
		d	記述	易	現代語訳。直後の「忽」との関係に注意する。
第三問 (理科)	随筆	(二)	記述	やや難	現代語訳。「何独」に注意するとともに、第一段落の内容を的確に捉える。
		(三)	記述	標準	内容説明。比喩の内容を傍線部の前後から捉える。
		(四)	記述	やや難	内容説明。「不可有」と「不可無」から対比であることを捉え、筆者が「執持之着」を重んじていることを読み取る。
		(一)			
		a	記述	標準	現代語訳。直前の文との関係に注意する。
		b	記述	やや易	現代語訳。「鳴天下」との対比から「声」の意味を捉える。
		d	記述	易	現代語訳。直後の「忽」との関係に注意する。
		(二)	記述	やや難	現代語訳。「何独」に注意するとともに、第一段落の内容を的確に捉える。
(三)	記述	やや難	内容説明。「不可有」と「不可無」から対比であることを捉え、筆者が「執持之着」を重んじていることを読み取る。		

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

本格的な漢文の読解力が要求されているので、基本句形や重要単語の習得と十分な問題演習が必要である。加えて漢文の背景となる思想や歴史などの知識も学んでおきたい。
細心の注意を払って文脈を読み取り、簡潔で過不足のない答案を作成する訓練を怠らないこと。
漢詩もたびたび出題されるので、文科、理科ともに漢詩の対策も必須である。